

平成 31 年度 教員免許状更新講習 シラバス

講習 番号	4	講習名	【選択】国語科教育に活かす古典文学研究の成果（２）				
担当講師	開催地	時間数	主な受講対象者	受講人数	講習形式	試験方法	
柳川 順子	広島キャンパス	6 時間	中学校・高等学校 国語科教諭	30 人	講義	筆記	
開催日	8 月 7 日（水）		予備日	8 月 10 日（土）			
【到達目標】							
中国古典について、その根幹を体系的に把握した上で、日本文学との関係性を理解している。							
【講習の概要】							
言葉の持つ価値への認識を深め、言語文化に対する理解や関心を育てることに重きを置く学習指導要領を踏まえて、「言語文化」や「古典探究」の授業づくりに活かせる古典文学研究の成果を紹介しながら、「日本における古典知の形成と展開」について考える。『史記』『搜神記』『文選』『白氏文集』『唐詩選』などの漢籍から、日本の古典知に組み入れられ、現代日本の「国語」のテキストにも多く採用されている作品を選んで、演習形式を交えつつ精読する。							
【講習の内容】							
講義 1：中国文学が王朝人にもたらした美意識							
中国文学が平安朝の人々にもたらした新しい美意識「やよいのつごもり」について、この語の淵源である白居易の詩の中から、「三月三十日、慈恩寺に題す」及び「元員外が三月三十日慈恩寺にて相憶ひて寄せられしに酬ゆ」を取り上げて、その摂取と文学的定着の過程をたどる。あわせて、『古今集』的歌風の成立に、平安朝前期に盛行した漢詩文と、その作風に深い影響を与えた中国六朝時代の文学が深く関与していることにも触れる。							
講義 2：中国知識人の精神的支柱と教養的基盤							
歴代の中国詩人が強く意識した「毛詩大序」と、これを踏まえて成った『古今和歌集』真名序との比較を通して、日本文学と中国文学との質的差異を考察する。次いで、中国知識人の精神的支柱を為す儒教の根本的発想と、彼らの教養的基盤を為す様々な分野の書物を体系的に把握する。その上で、一流の知識人を公僕として選抜する科挙という制度について概観し、こうした視点から、杜甫の詩を捉えなおし、中島敦「山月記」の再解釈を試みる。							
講義 3：中国の伝統的小説観と志怪小説							
奇想天外な中国小説は現代人をも魅了するが、前近代の中国文学において、小説というジャンルはそれほど高い位置を占めていたわけではない。儒教的規範に基づく中国の伝統的小説観を確認した上で、中世の志怪小説集『搜神記』の中から、特に日本文学に受容が認められるものを選んで味読する。あわせて、日本における物語文学の成立に、中国の口語による説話文芸が少なからず関与していると推定されていることにも言及する。							
講義 4：演劇としての「鴻門の会」							
日本でも盛んに読まれてきた司馬遷の『史記』は、その内に語り物や演劇といった文芸に由来する部分を多く含んでいるとされる。歴史書でありながら、躍動感あふれる物語として本書が受容されてきた所以だろう。このことがよく表れている鴻門の会の場面（「項羽本紀」）を取り上げて、その文体や構成の中に見える演劇的要素を拾い上げながら味読する。講義は演習形式で行い、国語科の授業への応用方法についても考える。							
【備考】							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座 3 と合わせて受講することで、より理解が深まります。 ・ 試験の際には、講義で配付した資料、ノート、電子辞書を含む辞書の持ち込みを認めます。 							